

点検評価協議会からの改善を要する点について、教育委員会の方針等

- 1 我が国は資源が乏しい国であるが、GNI（国民総所得）は世界トップクラスである。その根拠は、日本人の高い教育を受けた人材や技術、勤勉性に基づく組織力などの知的資源があるからだと考える。それを継続させるには、いかに知的資源を開発するかであり、そのため教育にかける期待は大きく、教育にかける投資は重要である。

大村市の現状においては、スポーツ面では、陸上競技をはじめ、野球、ソフトボール、バレーボールなど多くの競技において、国内外での活躍を見せる選手達が増加している。また、学術・研究面、文化・芸術面においても、自然科学研究、放送、声楽などの分野において、同様の活躍が多く見られるようになっている。

現在、活動しているスポーツや文化・芸術活動等への支援により、将来大村市が「〇〇日本一おおむら」と言われるように、その基盤づくりのための事業の実施により一層尽力願いたい。

（回答）

教育委員会では、将来を担う子ども達のため、また、現在、各分野で活動されている市民のため、各事業に取り組んでいる。

まず学校教育分野では、この分野のすべての事業において、その充実を図ることこそが、本市児童生徒の健やかな成長、ひいては「一芸に秀でる教育」の実践につながるものである。これにより、日頃の教育活動全般において、「ほめる」、「認める」教育をこれまで以上に行い、児童生徒の自己肯定感、自尊心、自己有用感の醸成に努めるとともに、今後も、魅力ある大村市の人づくりに向け、各事業への取組を推進する。

また、学校校舎の建替えなど教育環境の整備を進めることで、ソフト面の事業効果を最大限発揮できるよう学校の環境改善を推進する。

さらに、奨学金制度において「一芸に秀でる」生徒に対し、学業の分野をはじめ文化芸術の分野においても更なる活躍を支援するとともに、グローバルに活躍する人材についても支援する。

社会教育分野では、子ども科学館において、子どもたちに科学に対する興味を持たせることにより、科学的な事象の考察や調査研究する芽を育てる取組や、放課後子ども教室において、安全安心に子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強や文化活動、地域住民との交流活動等の取組を推進している。

また、ミライ on において、研究に必要な資料等の提供（貸出）や県内外の大学図書館、国会図書館や他の大型図書館が所蔵する資料と利用者をつなぐ支援を推進している。

文化振興部門では、本市における市民の芸術文化活動に対し、文化基金を活用した支援を行っている。また、小規模ではあるが、ミライ on においても演奏や発表・展示等の場（空間）を提供することで、文化振興に貢献していく。

この様な取組を通じて「〇〇日本一おおむら」と言われるよう、各事業の充実を図り、教育の基盤づくりにつなげていきたいと考えている。

- 2 大村市において積極的な文化活動が計画されている中で、その発表する場として「さくらホール」が唯一整ったホールとして存在しているが、今後もっと大きなイベントが開催できるようにしていただきたい。

(回答)

新たな文化ホールについては、他自治体の事例研究や整備手法の確認など、これまで様々な検討を行ってきたところであるが、本市の喫緊の最重要課題であった新庁舎の建設場所が決定したことから、既存施設の稼働状況や新たな体育施設との連携などを踏まえながら、今後も引き続き検討していきたい。

- 3 子ども会育成事業については、コロナ禍の中で、様々な行事の中止や開催規模の縮小などで、ここ数年は、学校、家庭及び地域の連携が上手くとれていないように感じる。また、核家族化や情報化社会の急速な進展に伴い、家庭環境や地域を取り巻く社会環境は著しく変化し、人と人との絆の希薄化も感じる。子ども達にとってはあまり恵まれた環境ではない。

こういう時代だからこそ、地域の異年齢の子ども集団の中で様々な事を学び、社会性を身につけ、活動を通して自主性を養う子ども会の活性化が重要になってくる。今こそ子ども会の減少を止める手段（活動内容等）を検討していただきたい。

(回答)

現在の社会情勢において、子どもたちは学童、クラブ活動、習い事などそれぞれ個々の生活があり、それに伴い保護者も多忙な生活を送っている。また、それに新型コロナウイルス感染症による影響も加わり、子ども会加入者の減少が進んでいる。

そのため、平成29年度から子ども会加入率向上対策協議会を設置し、子ども会の加入率向上及び活性化の対策について協議を行った結果、当該協議会の構成機関及び団体が各自で目標を設定し、積極的に活動及び支援していくこととなった。

活動の目標としては、自主的に子どもたちが遊べる環境づくり、自然と触れ合うイベントの取り入れ、子どもたちにとって魅力的な行事の実施、また、子どもたちが集まりやすい公民館づくり、町内会行事や健全協行事へ参加の呼びかけなどが設定されている。

教育委員会においても、今後さらに、子ども会の魅力を市ホームページ等で積極的にPRしていくとともに、募集チラシを小学校入学式などで配付することも計画している。

併せて、「令和4年度市子連総会」において、校区連・単位子ども会がない地域等を対象とした、市子連直轄単位子ども会の設置を提案されていることから、今後、どのように取組を進めていくか検討していきたい。